

中学校第1学年社会科学習指導案

日時 平成24年10月18日(木)

指導者 1年担任 教諭 橋本 義昭

1 単元名 「オセアニア州(世界の諸地域)」(東京書籍)

2 単元について

(1) ねらいについて

本単元は、新学習指導要領において、「世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けてそれぞれの州の地域的特色を理解させる。(ア)アジア(イ)ヨーロッパ(ウ)アフリカ(エ)北アメリカ(オ)南アメリカ(カ)オセアニア」と示してある。また、「世界の諸地域の学習については、州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること。」と示してある。

今回取り上げる(カ)オセアニア州は、オーストラリアやニュージーランド、太平洋の島々からなる国によって成り立っている。特にオーストラリアは、近年日本人観光客は増え、高校生の修学旅行先にもなっている。また、アジアとの結びつきをますます強めている。さらに、山鹿市はオーストラリアのクーマ市と姉妹都市提携を結んでおり、本クラスからも11月上旬からホームステイを予定している生徒がいる。生徒にとって、国際理解教育や異文化理解の面でも意義深い単元であると言える。

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 生徒の身近な活動や生活経験をとらえ、広く発展していくような学び合いにふさわしい学習課題となるようにする。
- 資料等のさまざまな情報をもとに、自分の考えをまとめる力を育てる。
- 電子黒板とパソコン、デジタル教科書等、様々なコンテンツを活用することで、生徒の関心・意欲を高め、学習内容の理解を助ける手だてとしていく。
- 机間指導を通して、個別に支援する環境をつくる。

- グループ学習では、役割分担をすることで、話し合いのスキルの定着を図り、学び合いにより学習する態度を育てる。
- 発問に応じて、個人で考えを深めた上で班や全体での話し合い活動を通して、共に学び合う意識を高める。
- 生徒の気づきを積極的に紹介し、自信を持って発表できる雰囲気を作る。
- 国際社会における日本の現状についても考えさせ、日本が、外国の人々も住みやすい社会にするためにどうすればよいのかを考えさせていく。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・ 導入の課題提示において、教師用デジタル教科書の資料を段階的に提示することで、課題に対して興味関心を高めるようにする。

②生徒の活用

- ・ ICT機器を発表支援、事象提示等に効果的に活用するだけでなく、展開時において、生徒自身が学び合い深めた考えをインターネット通信でオーストラリア在住の日本人との交流を通して、他地域への理解を深めるようにする。

3 単元の目標

- (1) オセアニア州について関心を持った内容から課題を設定し、意欲的に追求させる。
- (2) オセアニア州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題をもとに、多面的・多角的に考え、判断した結果を表現させる。
- (3) オセアニア州の地理的事象の特徴及び諸資料から、アジアとの結びつきや問題などを読み取り、図表などにまとめさせる。
- (4) オセアニア州の地域的特色及び結びつきを強めるアジアとの関係と課題について理解させる。

4 単元の評価規準

社会事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象への 知識・理解
アジアからの移民や、日本からの観光客が多いことから、オセアニアとアジアとのつながりが深まっていることに関心を持つことができる。	近年つながりを深めるアジアとのかかわりを農業や工業や人々の交流の中で関連づけて考えることができる。	オーストラリアの農牧業や鉱業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取ることができる。	オセアニアの自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。

5 指導計画及び評価基準（4時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	資	知	評価基準・評価方法
1	オセアニア州を大まかにとらえ、オセアニア州の紹介文をつくる。	・オセアニア州についての関心を高め、学び合いを通して、生徒自身が資料を関連づけられるようにする。	○		○		・オセアニアの資料から3つを選び、紹介文をつくることができる。 【ワークシート】
2	資源や産業に関して、アジアとオーストラリアの結びつきを確認する。	・資料を比較して、相違点を探しだし、オセアニア州の産業の特色とアジアとの関わりについて理解できるようにする。			○		・アジアへの輸出が増えた理由を資料から説明することができる。 【ワークシート】
3 (本時)	オーストラリアで、全体的に移民が増加し、アジアの移民の割合が高くなっている理由を、多面的・多角的に理解することができる。	・デジタル教科書のグラフから課題を把握し、移民の増加を歴史や人々の交流から考えられるようにする。				○	・移民が増加した理由を予想して説明し、その原因をワークシートにまとめることができる。 【ワークシート】
4	オーストラリアの人々が様々な問題を解決し、住みやすい国にするためにはどうすればよいかを具体的に考えることができる。	・テレビ会議を通して、多文化社会が進行するオーストラリアの取組を知り、これからの日本で何ができるのかを考えさせる。		○			・人種や民族が共存するためには、具体的にどのような取組をしていけばよいのかを説明することができる。 【ワークシート】

6 本時の展開

(1) 目標 オーストラリアで、全体的に移民が増加し、アジアの移民の割合も高くなっている理由を、多面的・多角的に理解することができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される生徒の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 5分	1 デジタル教科書でグラフを提示する。 (T) このグラフからどんなことがわかるでしょう。 (C) アジアの移民数と割合が増加している。 2 学習課題を確認する。	徹底指導 (ポイント) ○ 語句の意味やグラフの読み取りの仕方を確認する。 ○ 生徒の意見や考えを大切にして学習課題をつかむ。	デジタル教科書
課題 アジアからの移民の増加と、これからのオーストラリアについて考えよう。			
展開 35分	3 原因を予想し、発表する。 (T) なぜ、オーストラリアでは、全体的に移民が増加し、アジアの移民の割合が高くなっているのか考えよう。 (C) 仕事がある。環境がよい。広い土地でのびのびと暮らせる。自分の国より暮らしやすい。 4 オーストラリアの移民の歴史と、ものや人々の交流についてまとめる。 (T) アジアの移民が増加する原因を確認しよう。 ・移民のアンケート ・先住民～ヨーロッパの移民 ・白豪主義とその転換 ・ものや人の交流 ・多文化社会の形成 5 多文化社会での課題を考えて出し合う。 (T) 多くの人種や民族が同じ国に住んだら困ることはないだろうか。 (C) 言語・宗教・生活習慣・ルール。 【言語活動】 (設定の意図) 生徒のあいまいな考えを、グループや全体で、意見を出し合わせることによって、より具体的な考えに深める。	○ 生徒の考えを大切にするために机間指導でアドバイスを行う。 ○ 住みたいと思える理由を自分なりに考えさせる。 ○ 生徒からの予想を確認するように移民のアンケート、歴史やグラフを取り上げ、多面的・多角的に確認するように留意する。 ◆思考・判断・表現(ワークシート) B基準 移民が増加した理由を予想して説明し、その原因をワークシートにまとめることができる。 A基準 移民が増加した理由を予想し、相手にわかりやすく説明しその原因を資料から多面的にまとめることができる。 能動型学習 (ポイント) ○ 自分の考えを相手にわかりやすく説明できるようにまとめさせるようにする。 ○ 意見が出にくいときには近くで交流させながら、自分の意見を持つようにする。 <B基準に達していない生徒への手だて> ○ 自分の考えや疑問を周囲に知らせ、友達からのアドバイスを受けるようにさせる。	パワーポイント デジタル教科書
終末 10分	6 真の多文化社会をめざすための具体的な取り組みを考える。 (T) 様々な民族が共に暮らしていくためには具体的にどうしていけばいいだろう。	○ 机間指導をしながら、よい意見を評価し、次時につなげる。	

